

# 浄妙寺跡発掘調査の概要

調査場所	宇治市木幡赤塚 8 番地 1 他	発掘機関	宇治市歴史まちづくり推進課 0774-21-1602
発掘理由	登り保育園改築に伴う事前調査		
調査期間	平成 25 年 5 月 8 日開始 ~ 平成 25 年 7 月終了		
発掘面積	5 8 7 m <sup>2</sup>	発掘深度	0.5 ~ 1.8m
検出遺構	区画溝・門跡・柵列など	出土品	瓦・須恵器・土師器など整理箱 2 0 箱。

## 1、浄妙寺について

木幡は、藤原道長や頼通を含む藤原氏の埋葬の地でした。これらの墓は、現在宇治陵として宮内庁が管理しています。浄妙寺は、藤原道長が寛弘 2 年（1005）に藤原氏の菩提を弔うために建立した寺です。寺地の選定には陰陽師の安倍晴明などがあたり、川の北方にある平地に定められました。建築工事には道長は頻繁に木幡に足を運んでいます。また造仏には康尚が、扁額と鐘銘の書は藤原行成と当時の第一の人物が担っており、道長の建立に対する意欲が並みでなかったことがわかります。

平安時代においては、浄妙寺は平等院とともに摂関家の重要寺院として位置づけられていましたが、鎌倉時代に入ると寺の別当職が聖護院宮家に移り、徐々に衰退していきます。そして室町時代の寛正 3 年（1462）一揆により放火され焼亡してしまいます。

## 2、浄妙寺の調査の経緯

廃絶した浄妙寺は、江戸時代には門跡などの伝承が残っていたようですが、その後その所在は分からなくなっていました。しかし現在の木幡小学校の東にある墓地が、「ジョウメンジ墓」と通称されていたことなどから、現在の木幡小学校付近に浄妙寺があったものと推測されていました。

昭和 41 年に、木幡小学校の建設が決まったことを受けて、昭和 42 年に発掘調査を実施したところ、浄妙寺の本堂である法華三昧堂の遺構が発見され、浄妙寺の位置が明らかになりました。そして重要遺構の発見を受けて、木幡小学校は校舎の位置を変更して建築されました。

その後、平成 2 年に小学校の校庭改修工事に伴い、法華三昧堂の正確な位置と埋没深度を確認するための調査を実施し、法華三昧堂の全容と多宝塔と考えられる遺構を確認しました。

平成 15 年度から 17 年度にかけては、浄妙寺の史跡指定に向けた範囲確認調査を実施し、文献に書かれている川の跡や、北限が木幡小学校の敷地よりさらに北に広がることなどを確認しました。また平成 21 年度には、木幡小学校の校舎増築に係る調査を実施し、寺域の南限を示す築地跡を確認しました。

## 3、調査の概要

調査は新しい園舎の建築する地点に 2 か所のトレンチを設定して実施しました。調査地の西にある道路は三十番神街道と呼ばれ、宇治市史では中世以降の道路とされていますが、浄

妙寺の墓参記事には「南辻」などの表現があることや、浄妙寺に西門があったことなどから、浄妙寺の西側には道路があったことがわかります。このことから今回の調査では、当初寺域の西限を区切る築地跡や門などの遺構の存在が予想されました。

調査の結果、西にある1トレンチでは築地跡は検出しませんでした。幅2～3mの南北方向に並ぶ2本の溝を検出しました。溝と溝の間は約5mの空間がありますが、溝の位置よりやや東側には一対のピットがあります。北側のピットには石が据えられており、建物の礎石であることがわかり、門の跡と考えられます。これらの遺構の配置から、2本の溝は浄妙寺の西限を区画する溝と考えられます。

東側の2トレンチでは、整地層や土坑・ピット等を検出しており、瓦や緑釉陶器、土師器等が出土しています。

#### 4、まとめ

今回の調査では、浄妙寺の西限を示す区画溝を確認しました。平成21年度の調査によって浄妙寺の南限が明らかになったのについて西限が明らかになり、浄妙寺の範囲が具体的に明らかになってきました。今回の調査は、浄妙寺の具体的な姿を推測する上で、重要な成果と言えるでしょう。



浄妙寺推定復元図